

令和8年3月 「はこでみ親の会」

はこでみ親の会を開催しました。

今回の親の会の中で話題になった内容は、親の会にご参加の保護者様のお子様の一言です。

それは、「僕は普通になりたい。」という一言です。

その子は、とても心優しい青年です。自分のために必死に効果的な支援や安心して過ごせる居場所を探してくれているお母様に、素直には言えないけれど感謝の気持ちを忘れない青年です。

しかし、発達特性からくる苦手さが目立つようになり、様々な場面で思い通りにいかず、自分に自信が持てない状態が長く続きました。

それでもお母様と一緒に大きな不安を抱えながらも一歩ずつ前に進んできました。

ただ、進んでは立ち止まり、また元に戻る流れを繰り返し、親子共々疲れ切った状態が続いていました。

しかし、そんな状況の中、ある日本人から「僕は普通になりたい」との言葉が出てきました。

すると、

中々前に進めない自分自身を「俺はどうせ駄目だ。」「俺なんかいなくなった方がいい。そうすればお母さんも苦しまなくてよくなる。」と否定する言葉が溢れていた状況が少しずつ変化していきました。

■朝、心身共に動けない状況になったら、その日は一日動けなかったのが、昼から外出できるようになった。

■お母様が一緒じゃなくても、公共交通を利用して移動できるようになった。

■自分自身の不調をイライラやネガティブな言葉で表現するのではなく、前向きな気持ちで言語化できるようになった。

など、本人にとっては大きな変化が起きていきました!

これにはお母様も驚きを隠せませんでした。

「僕は普通になりたい。」との本人の内側から出てきた強い思いがパワーとなって、今までは挫けていた場面でも踏ん張ることができるようになったのです!

これは、本人の強い希望と今まで諦めず懸命に我が子のために支え励ましてきたお母様の愛と努力の賜物です!

今後も山あり谷ありな人生が待っています。しかし、諦めずに我が子を信じて前を向いて進んでいけば、必ず光が見えてくる事を、お母様に教えて頂きました。本当にありがとうございます。そして、本当にお疲れ様です。

